

あじけん通信

株式会社きぼう国際外語学院

企画・編集 澁谷 健司



「初心忘るべからず」
秋晴れの空の下、中国
人実習生の部屋の
ベランダに干されて
いたTシャツ。

「立冬」も過ぎ、暦の上ではもう冬です。幸い、穏やかな冬の訪れとなっていますが、この時期は、昼夜の寒暖の差が激しくなるので、実習生の皆さんも油断は禁物です。中国には、「立冬補冬、補嘴空」（冬を乗り切るには、この季節に収穫された旬の食べ物を、季節にあった調理法で食べることが最良の方法）と言う諺があるそうです。日本では、さしずめ白菜やキノコ類を使った鍋料理や、石焼きいも？などが当てはまるのでしょうか。しかし、来日したばかりの実習生の皆さんにとっては、慣れ親しんだ母国の味が、元気の源のようで、朝夕の食事時には、各国から持ってきたと思われる様々な香辛料や、調味料の匂いが混ざり合った、なんとも言えないエスニックな空気が、研修センターの中庭に漂います。異国の地でも、力強く生き抜いている実習生の皆さんの姿から、元気を分けてもらう瞬間でもあります。

今年も残り2ヶ月を切りましたが、そんな実習生の皆さんの逞しさに負けぬよう、本校講師・スタッフ一同、「初心を忘れず」、技能実習生の為の実践的な日本語教育に真摯に向き合っていきたいと思ひます。

あじけんスコープ Vol.37 ～実習生の行動範囲～

このところ、あじけんで、実習生の皆さんの行動範囲の広さが、話題になることが増えてきています。ほんの数年前までは、考えられなかったことですが、週末に、電車に乗って宇都宮まで行き、餃子と生ビールを堪能してくる実習生や、世界遺産「日光東照宮」まで足を伸ばし、記念写真をパシャリ！先日は、既に日本で生活している同国出身の友人に案内されて、足利市にあるフラワーパークに行った実習生もいました。実習生の皆さんが以前より経済的に豊かになったり、スマホ等のインターネットに簡単にアクセスできる通信端末機器の普及により、日本に住んでいる同郷の友人達等とのネットワーキングが容易になってきたりしていること等で、来日直後にもかかわらず「日本に来たばかりで、右も左も分かりません。」的な不安をあまり感じなくなっているのでしょうか。実習生の皆さんが、余暇を有意義に過ごすことは素晴らしいことです。

しかし、技能実習に従事するための極めて重要な講習期間中の実習生をお預かりしている本校としては、来日間もない実習生の皆さんが、不慮の事故や思わぬトラブルに巻き込まれかねない遠方への外出には、否定的にならざるを得ないのが現状です。

そこで、来年1月より、公共交通機関などを利用した小山市外への外出を原則禁止とし、本人から外出の申し出と、受け入れ団体様からの承認があった場合のみ、許可していきたくて考えております。具体的な運用につきましては、後日各受け入れ団体様宛てに、改めてご案内させて頂きたいと考えておりますので、皆様のご理解・ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。



今月の実習生達

今月は、中国人実習生、向かって左から、李雪松さん・付勇生さん・張琦さんと、写真中央のフィリピン人実習生 GOMES TORY DESCARTIN（トロイさん）の4名を紹介します。

4人はクラスメイトなのですが、去る金曜日の晩、たまたま用事があり、李さん達の部屋を訪れると、なぜかトロイさんがそこに!?びっくりして事情を聞いてみると、この日は、李さんたちに招待されて、一緒に晩御飯を食べているとのこと。お互いにたどたどしい日本語ながら、手作りの中華料理を囲んで、楽しそうにコミュニケーションを図っている皆さんの笑顔が、とても印象的で、あじけんには、「国境」がないんだなと、実感させられました。



あじけん流日本語授業

わたし まち

自作地図を活用した言語活動 ～ 私の町 ～

今回のあじけん流日本語授業では、「私の町」と題して行なわれている言語活動をご紹介します。

この活動では、まず実習生の皆さんが、自分達の故郷の家の周辺の地図を描きます(写真1)。この時に、講師から、地図の描き方について、「まず、じぶんのいえをかいて!」「それから、どうろをかいて!」等の指示を受けます。その指示に従って、地図を描いていくのですが、この時に、カラーペン等で、色付けもするので、色を表す単語に触れることも出来ます。また、作業中は、講師が机間巡視しながら、「これは、なに?」「あなたのいえはどこ?」「もうすぐ じかんだから、すこし いそいで!」等、作業中の実習生に問い掛けることで、より実践的な状況下での会話練習も可能となります。クラスのサイズや実習生の日本語力にもよりますが、この作業におよそ1時間かけます。

次に実習生は、発表準備に取り掛かります。この時に、自作地図中の建物(教会・モスク・市場等)の言い方を辞書で調べたり、先生に直接聞いたりします。また、「～のまえに～があります。そのとなりに～があります。」等、地図の説明文を自分で考えます。この活動を通して、実習生の皆さんは、存在文「～に～があります」や、位置詞「上下・前後・左右等」、「右に曲がると、～があります」等の道案内の時等によく用いられる動詞の辞書形を用いた確定条件を表す文型等、多くの基礎単語・基礎表現の意味用法を、体験的に学ぶことができます。

最後に、実習生の皆さんは、一人ずつ、教室の前に出て、自分達が描いた故郷の家の周辺図の説明をします(写真2)。ここで、説明を聞いている側の実習生から「それは、なんですか?」「あなたのいえから、そのスーパーまで、どのくらいかかりますか」等の質問をさせることで、実習生同士のインタラクション(教室で行なわれる言葉を使った様々なやりとり)が起こり、既習の言語材料の習得が促されることとなります。発表用の地図が B4 サイズと小さいので、後ろの席の実習生には見えづらい、クラスのサイズによっては、全員が発表するのに1時間以上かかってしまう等、様々な問題点も出てきているので、クラスを数名のグループに分け、グループ毎に発表する等、より効果的な実践方法を模索しているところです。

写真1



写真2



※当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます